

◆科目名：総合文学研究ⅢA(言語学の方法)

◆曜限：金曜5限(16:10-17:50)

◆担当者：石井 透

◆授業内容

この授業では、Noam Chomsky の *Cartesian Linguistics: A Chapter in the History of Rationalist Thought* (『デカルト派言語学:合理主義思想の歴史の一章』)をテキストとして、「言語とは何か？」さらには「人間とは何か？」という問いについて理解を深めることを目的とします。

Chomsky は、知識人とメディアの責任を中心に、長年にわたって世界に向けて発言をつづけてきましたが、2001年9月11日の同時多発テロ以降、その発言はいっそう注目されるようになりました。その人間の自由と尊厳を追求する思想は、言語学者としての言語観に深く根ざしていると言えます。本書は、デカルトからポール＝ロワヤル文法へ、さらにフンボルト、ロマン主義へと連なる言語学の流れを明らかにして、言語行動における自由と創造性に光をあて、Chomsky 自らの言語観・人間観を示す「方法序説」となっています。より具体的には、言語使用の創造的面、深層構造と表層構造、言語学における記述と説明、そして、言語の習得と使用へと議論が進んでいきます。

上記のように、本書の内容は一般的な言語研究の歴史的な背景や方法論、さらには、それに基づいた人間観に関することですので、理論言語学の技術的細部に関する議論はあまりありません。日本語学(国語学)・英語学・フランス語学・ドイツ語学など、言語研究に従事している方はもちろんのこと、文学を専門としながらも言語についても興味のある方、さらには、Chomsky の政治的思想・発言に興味があり、その基礎となっている言語観・人間観についても知りたいと思っている方などにも、十分対応できるように授業を進めていく予定です。

なお、テキストは、英語または邦訳どちらを使っても構いません。

◆履修上の注意

特になし。

◆教科書

Chomsky, N. (2009) *Cartesian Linguistics: A Chapter in the History of Rationalist Thought (Third Edition)*, Cambridge: Cambridge University Press. (Originally published by New York: Harper and Row in 1966.)

(『デカルト派言語学:合理主義思想の歴史の一章』川本茂雄訳、みすず書房、1976/2000)

◆参考書

特になし。

◆成績評価の方法

授業への参加とクラスでの発表による。